



勉強しなさい

実力テストの2日目の午後、理系の諸君で地歴を受けない人が教室に残っていて、テストが始まった後にN中先生から「隣の教室はテスト中だから静かにしなさい」と注意を受けていたが、そんなことではいけない。

まず、第一に、隣のクラスでテストをやっているのは明かなのだから、受験生たる者、注意される前に静かにしなければならないことに気づいて、互いに注意しあわなければならないはずだ。それが出来ないというのは、ちょっと情けない。

次に、注意されたということは、その時間をムダに過ごしていた証拠である。先生、おしゃべりの気分転換も必要です…というのは通らない。気分転換は休み時間にやればイイので、いざチャイムがなったら(…って、今回はチャイムは鳴らなかったが)、サッと勉強の体制に入らなければならない。例えば、5分×5日間で25分になる。25分あればそれなりの勉強ができるはずだ。その時間をムダにしないような意識を持たなければ、受験勉強で先行しているだろう中高一貫校のライバルや、蠟人形(浪人の人)たちに勝てるわけがない。君たちの目指している志望先は、そんなに甘くはないのである。

早くそこに気づくこと、そして、気づいたらそれをちゃんと行動に移すことが大切だ。「赤信号、みんなで渡れば、こわくない」ではなく、「すきま時間、みんなで勉強、当たり前」とならなければ、決してよい結果は得られないだろうことを予言しておく。「源氏物語」が、物語の中の予言通りに進むことは有名だが、受験結果も私の予言通りになるに違いない(多分、おそらく、本当に…?)

最近、休み時間に多くの人が国語の勉強について相談にやってくる。

主訴その1は、「センターができない」である。評論が不得意な人は、例えば過去問集を見ると、「哲学」とか「近代科学」とかその評論のジャンルが出ているので、自分が不得意だと思われるジャンルの文章を、繰り返し(同じ文章を5回くらい)解くことが大切だ。一方、小説は、残念ながらジャンルはない。そこで、まずは問一用の問題集を買って、ここの自信をつけることから始める。次に、こればかりはちょっと時間を延長する(25分~30分かける)ことになるが、問2~5の「なぜか」とか「心情の説明」とかの問題については、選択肢を見る前に、自分なりの答えを用意するという練習をするのがよい。選択肢の比較で迷っていても読解力はつかないのだから、問題文そのものを読めるようする、つまり、自分なりの答えを用意する練習を重ねることが大切。不得意部分については、量を意識せずに質を意識しよう。焦りやすい時期であるだけに、国語だけでなく、不得意科目は基礎練習を繰り返して、ちょっとでもよいから底上げを図ること。

主訴その2は、「実戦」や「オープン」で古典の点数が伸びなかったというもの。これは過去問の添削指導を徹底的に受けるしかない。それ用のノートを用意し、解答欄の大きさに合わせて罫線でノートを区切り、添削してもらうための余裕を十分にとって、時間を計りながら自分の解答をまとめる。その際、迷ったことや困ったことのメモを添えるとよいだろう。あとはT畑先生に相談である。